

2. 工 藝 部

2. 1. 業務の概要

改組当時は木工・竹工・窯業の部門を含んでいたが、木材工業試験場が分立したので現在陶器の試作・研究並に指導に当たっている。

本県の陶器は歴史的にも古い傳統を持ち、海外ではサツマウエアーとして珍重され、近來民芸品として苗代川焼・龍門司焼等その素朴さが愛好されてはいるが、何れも技術・設備共他県生産地に比して甚だしく遅れ現在産地として問題にならない程貧弱である。

然し又それだけに獨得な風格を持つてゐることも事實である。

陶磁器が割れ易いと云う致命的な欠点を持ちながら尙産業に占める地位の重要さは、その本質が持つてゐる文化的意義が高く評価されるためであつて、各産地共夫々獨得の技法を駆使して消費者の趣味嗜好に如何に投ずるかに最も苦心を払わなければならない。消費者の階層も亦極めて複雑であることは現在の生活必需品のうち陶器の右に出るものはないと思われる。従つてその指導方法も如何に他産地に得られない風格を保存し、且つ消費者の嗜好に投じ得るもので生産の助長をはかるにかゝるのであるから従來は専ら意匠・形・釉藥等の試作研究に努めて來た。

最近化学部に窯業化学關係の施設も不充分ながら整備されたので県内産の各種窯業原料種業等の研究が進められるようになったから各窯元の品位の向上も期せられるものと思う。

本県陶器の産地と窯元を大別すると次の通りである。

- 苗代川焼…日置郡下伊集院村にあり、買入のある白薩摩と黒釉・ソバ釉等を施した黒薩摩の窯が数基ある。傳統のある産地であるが民芸品として喜ばれる黒サツマ釉藥・技術等の低下で現在昔日を偲ぶよすがもない。
- 龍門司焼…始良郡加治木町小山田にあり、数名で企業組合を組織して共同作業を営んでいる。釉・技術共昔日には及ばない。
- 鹿兒島市内の白薩摩…市内に二窯元あり、最近生地・釉藥の研究が進んで生地の肌合と

買入は昔日に劣らぬものが焼上つてゐる。

但しロクロ技術・錦絵付共雜色が多い。輸出向としても殆んど出荷されていない。

白薩摩の原土は共同作業で精練して業者に供給している。

- 長太郎焼…鹿兒島郡谷山町にあり、明治三十二年創業
- 霧島焼…大口市にあり、昭和二十一年創業
- 指宿焼…指宿市二月田にあり、昭和二十七年創業

2. 2. 研究試験

2.2.1. 研究題目 苗代川黒釉の研究

研究者氏名 寺尾作次郎
研究開始時期 昭和28年4月
研究終了時期 継続中

〔目的〕 近來苗代川黒釉料が殆んど採掘不能になつたので、品質の悪い釉藥を使用するため品格がないので之が改良を要する。

(1) 大口鉾山排出黃土の利用

〔成果〕 黃土30%、石灰石30%、長石20%、ロー石20%の配合率で焼成温度S.K. 8~9番で艶消紺黒色が得られる。

(2) 牧園鉾山酸化鉄鉾の利用

〔成果〕 福島長石55%、珪石28%、石灰石10%、牧園鉾山酸化鉄6.8%、酸化クロム0.1%、酸化コバルト0.1%の配合率で焼成温度S.K. 8~9番で漆黒色を呈し、買入なく釉は定して乱れない。

(3) 苗代川2級品釉と牧園鉾山酸化鉄鉾の配合釉

〔成果〕 苗代川2級釉8、牧園鉾山酸化鉄鉾1、木灰3、(この場合の配合数字は比率ではなく1杯、2杯と掛で計る習慣があるので8杯、1杯、3杯の意味)
登窯1、2の間の中立S.K. 9番弱、
押へ上S.K. 8番で焼成の結果1、2の間の

中立は金茶釉を呈し押へ上下は漆黒色で釉の
光沢良好

2.2.2. 研究題目釉下絵の具の研究

研究者氏名 寺尾作次郎
研究開始時期 昭和28年4月
研究終了時期 継続中

〔目的〕特色ある釉下絵具の調製

(イ) 褐色（従来使用中の鉄絵の具に明るさを持たせるため）

〔成果〕酸化亜鉛6、石灰石4、硼砂2、酸化クローム1、酸化鉄2を酸化焰焼成でチョコレート褐色系の綺麗な色調が得られる。

(ロ) 青緑色の配合

〔成果〕ロー石5、酸化コバルト1、蛙目8、酸化タープム0.3（何れも秤目の割合を示す）の配合で呉須の発色を更に明朗にした近代的な感じを持つた色彩が得られる。但し酸化焰の場合は多少黒味を帯びる。

2.3 雑 録

2.3.1 講習会並に技術指導

今年度は特に中・小学校が工作教育に無業技術を探り入れたところが多く築戸、工作、焼成の技術指導に追はれた。

講習会開催校並に受講者数

薩摩郡山崎中学校 参加校 27
薩摩郡宮之城中学校 参加校 34
始良郡帖佐中学校 参加校 28
川内市可愛小学校 参加校 70

技術指導者 寺尾作次郎、淵脇堅治

講習内容

イ、樂焼窯の基礎より外衣を着せるまでの実地指導

ロ、弁慶稿、市松、鶴手、花文等、異色土練り合せ等ロクロ外の成形法

ハ、簡単に出来る粘土細工、手すくねによる手法

ニ、浸し掛け、打掛け、刷毛目、刷毛打、布打、櫛目、自然植物張付、指頭文、白繪、釘彫、

印花、掻き落し等白化粧裝飾法

ホ、各種低火度釉の調合比率等について
へ、素焼並に樂焼の実地焼成指導

国内留学教官の指導

祇川中学校、勝目中学校、東襲山中学校

伊集院中学校、大始良中学校

2.3.2 質疑応答、技術相談その他

本場で技術相談に応じた件数……… 14件

見学者数……… 526名

焼成試験……大素焼2回・本焼3回・錦窯19回

試作数量……1089点、匣鉢250

2.3.3. 設備使用許可

設備名称	使用目的	使用期間	使用者
電気炉	陶器の錦絵付	昭和28年6月26日	薩摩陶器
全 上	全 上	28, 7, 3	全 上
全 上	全 上	28, 7, 31	全 上
全 上	全 上	28, 10, 17	全 上
全 上	全 上	28, 11, 18	全 上
全 上	全 上	28, 12, 4	全 上
全 上	全 上	29, 2, 18	全 上
全 上	全 上	29, 2, 27	全 上